

誰もが支え合い、共に暮らせる地域を目指して

複合支援施設 ちがさきA・UN (茅ヶ崎市)



4階建の建物の1階に「うーたん」(保育園・児童発達支援センター)と「おーらい」(生活介護)、2～4階に「ゆるり」(特別養護老人ホーム)が設置されています



明るい雰囲気のエントランスホールは、施設利用者や地域の方々の交流の場になっています

◆(福)翔の会 ちがさきA・UN (あうん)  
茅ヶ崎市今宿473-1  
☎0467-84-6211 FAX0467-84-6110  
URL <http://www.syonokai.jp/>

昭和58年、茅ヶ崎市内に暮らす障害のある方と親たち、ボランティアが集まり、月1回の昼食会を企画したことから、(福)翔の会の活動は始まりました。障害のある方の就労や地域活動の支援、さらには高齢者支援へと活動を広げ、事業を展開してきた原点には「誰もが地域で豊かに暮らせるために」という法人の理念があります。

そして今年7月1日にオープンした、障害のある方・高齢の方・児童への総合的なサービスを提供する複合支援施設「ちがさきA・UN (あうん)」にも、当初から掲げる基本理念が息づいています。同会では、これまでも身体障害者療護施設と知的障害者更生施設、高齢者デイサービスを組み合わせた福祉施設づくりに取り組むなど、誰もが支え合うことができ、地域の拠点として、新しい施設のあり方を探ってきました。

その経験を踏まえて開設した「ちがさきA・UN」には、障害のある方、子どもから高齢の方まで、日ごろから顔を合わせて見守り合う環境と、地域の方々の交流がある暮らしの中で、施設利用者が地域の一員であることを自然に感じられるような仕掛けが考えられています。

たとえば、明るく広々としたエントランスホールは、利用者同士の交流スペースとしてだけでなく、障害のある方の就労の場としてカフェが設置され、地域の方々と自由にふれあう場にもなっています。また、保育園と児童発達支援センターを併設することで、障害の有無に関わらず、子どもたちが自然と関係を築くことができるよう、一緒に過ごせる時間を多くつくっているそうです。障害のある方の生活支援の場や特別養護老人ホームにも、子どもたちと利用者が行き来し合うなど、自然と交流の機会が生まれています。

『ちがさきA・UN』が障害や世代を超えた交流の場、地域とのつながりの場となることで、より良い地域を目指していく。地域において、その人らしい暮らしを支える拠点として機能が果たせるようにはしていきたい」と同会理事の松永徹さん。今後の取り組みに期待が寄せられます。

(社会福祉施設・団体担当)



〒236-0002 横浜市金沢区鳥浜町16-2 | Tel.045-776-2671 | Fax.045-776-2678 | <http://www.portside.co.jp>

赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています

【発行日】2012(平成24)年9月15日(毎月1回15日発行) 【編集発行人】鈴木和夫  
【発行所】社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 【印刷所】株式会社神奈川新聞社  
〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4番地の2 ☎045-311-1423 FAX045-312-6302 E-mail [kikaku@knsky.jp](mailto:kikaku@knsky.jp)

ご意見・ご感想をお待ちしています!